

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 国語科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養うこと。
- ・ 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めること。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 基礎的な学力の定着を図るための時間の確保をする。
- ・ 活用場面を国語科以外でも設定し、基礎基本の定着を図る。
- ・ スキルタイムや家庭学習において、学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 自分が伝えたいことや思ったことを、短い文章で書けるよう学習感想を授業の終わりに書かせる。
- ・ 「はじめ」「中」「終わり」で構成を考えて、作文を書かせる。
- ・ 2年生の新出漢字の使い方を正しく確実に覚えさせる。
- ・ 対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

①伝えたいことや思ったことを書く活動を行う。

②尋ねたり応答したりして、少人数で話し合う活動を行う。

＜検証方法＞

①毎回の授業の終わりに学習感想を書き、自分の考えを友達と伝え合う活動を取り入れる。また、週末の宿題として一日1ページ分の日記を書かせ、各話題を自分で決めて、自分の考えを書き表す習慣を身に付ける。

②ペア、または3人までの少人数グループを形成し、毎回の授業に対話活動を取り入れる。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 算数科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・身の回りの物を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わろうとする態度を育てる。
- ・算数の学習問題から見出した算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決する力をつける。
- ・問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝える力を伸ばす。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

○言語の視覚化

- ・合併、増加、求残、求差の言語を視覚化し、文章問題において立式の根拠をもてるようにする。
- ・児童の習熟の度合に応じて演習量・難易度を選択できるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・課題把握の場面で、解決方法の見通しがもてるよう、毎回の導入場面で既習事項を振り返る。
- ・自力解決の場面で、自分の考えをノートに書く際に、「図」「式」「言葉」を活用し、説明できるようにノート指導を行う。
- ・対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①自分の考えを図で書き表せるように、身の回りにある具体物や半具体物を操作する活動を多く取り入れる。
- ②考え方について、尋ねたり応答したりして、少人数で話し合う活動を行う。

＜検証方法＞

- ① 1時間の授業の中で、身の回りにある具体物や半具体物を操作する活動時間を15分～20分確保する。
- ② ペアや3人グループなどの少人数で話し合ったことを、全体に共有するために、ホワイトボードを使い、質疑応答の時間を10分程度確保する。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】**

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 生活科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・児童の生活の安全・安心に対する配慮から、自然事象に接する機会が乏しくなっているため、生命の尊さや自然事象について体験できるようにすること。
- ・児童は地域の中で様々な人や場所、ものに関わりながら生活している。しかし、子供たちに東町・西町・清瀬・奥村地区について知っているか尋ねると遊ぶ場所以外の場所が出てこなかった。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

○様々な活動や体験を取り入れた授業の推進

- ・村のことを調べたり人々と交流したりする活動、野菜を育てる活動、生き物を探し観察したり、調べたりする活動、身近な材料を使って動くおもちゃを作る活動、これまでの自分の成長を振り返る活動を通して、日常生活や学習上での自立を目指す。
- ・動物や植物との関わりを増やすことで自然への興味関心を向上させる。
- ・朝の会や帰りの会に動物や学級菜園の情報交換を行うなど日常活動に位置付けていく。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・自然事象について直接体験を重視した学習活動を展開し、生活科での学びを実生活に生かせるようにする。
- ・自分たちの町には安心安全につながるものがたくさんあり、安心して生活できるという安心感や親しみ、愛着の気持ちをもてるような単元計画を作成する。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

<方策>

- ①外部と連携して地域に根差した教材を用意する。
- ②町探検へ出かける際、どのようなところを見て回ればいいのかについて考えさせたり、施設で働いている人にインタビューをさせたりして自分たちの住む町の良さについて気付かせる。

<検証方法>

- ①地域の生物について調査したことを発表する。
- ②すべての経路を探検後、写真と感想を書いた付箋の仲間分けを行う。それぞれがどのような役割をもっているのか、児童が仲間分けできるようにする。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

<成果>

<課題>

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**



〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・ 図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・ 道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解するとともに、表し方をさらに工夫する力を高める。
- ・ 一つの発想方法や考え方だけでなく、様々な方法があることに気付き、意欲的に楽しんで試せるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。
- ・ 活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。
- ② 体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

<検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品観察。全児童がある程度新たな表現方法の面白さなどに気付けるようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 体育科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・各種の運動遊びの楽しさに触れ、基本的な動きを身に付けるようにする。
- ・各種の運動遊びがもっと楽しく充実するように、行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

○日常的に走る運動を取り入れた授業の推進

- ・準備運動などで走る運動を意図的に取り入れていく。
- ・自分の思った通りに体を動かし走力を高められるよう様々な動きを取り入れた運動場を設定する。
- ・友達の動きを観察する場面や、模範を示して技術的な指導を行う場面の設定をする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・基本的な動きの手本やポイントを動画で確認したり、自分の動きをタブレット端末で友達と撮影し合ったり、ICTを用いて自己確認できる授業展開を計画する。
- ・単元ごとに、同じめあてをもつ同質グループと、違うめあての達成を目指す異質グループを作り、児童同士が教え合い学び合えるスタイルを作る。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

<方策>

- ①各自の能力に応じた、段階別の場の工夫。
- ②自分たちの考えを試せる十分な活動時間の確保。

<検証方法>

- ①児童の発達の段階に応じた各種の運動を通して、できる楽しさに触れることができるようにする。
- ②ワークシートに指導計画を取り入れ、児童が活動内容を把握し、時間が十分に確保できるよう自分たちで行動できるようにする。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

<成果>

<課題>

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】**

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 道徳科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・ 単元によっては、児童の発達段階や経験不足から、登場人物の心情に寄り添うことが難しい場合がある。
- ・ 自分の経験や考え方、感じ方で物事を捉えがちなきもあるため、物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 道徳の教材と児童たちの経験をすり合わせる活動を導入時に取り入れて、問題を自分事のようにとらえられるようにする。
- ・ 役割演技などの活動を取り入れ、登場人物の心情に寄り添えるようにする。
- ・ 他者とテーマについて対話することによって、物事を一面的ではなく多面的に考える、また、一つの視点からではなく様々な角度から多面的に考える。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ① 掲示物や ICT 機器を活用して、場面が想像できるようにする。
- ② 登場人物の役割演技や動作活動を取り入れる。

＜検証方法＞

- ① 掲示物や ICT 機器を活用して、そのときの場면을想像できているか確かめる。
- ② ペアでの役割演技や動作活動を行い、登場人物の心情が考えやすくなっているか確かめる。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**